

## 糸片虫とカゲロウ

糸片虫なるものをご存知だろうか？ハリガネムシの幼生がカゲロウの体内に入り、カゲロウが羽化をして大空に舞い立った時、それを捕食したカマキリ(他の生命体もあるが)に宿主を変えるハリガネムシの事は以前に書いたことがある。それと親戚のようなものである。

糸片虫は、いわゆる線形動物部門でセンチュウ(線虫)といわれるものであが、センチュウ自体研究が進むにつれて種類数はどんどん増加して、最大限の見積もりでは地球上に1億種というものがあるという。昆虫の種数を大きく上回ることになる。

糸片虫とカゲロウの関係は有名な話で、カゲロウに飲み込まれた糸片虫の妖精は宿主のカゲロウが羽化をした後一緒に空中遊泳をして、宿主が産卵のために川へ戻ったときに、無事川に帰還するのである。が、雌に飲み込まれたものはよいが、雄に飲み込まれた糸片虫は帰還のチャンスが途絶える。そこで宿主の雄を雌化させて川に戻るそうである。此のとき雄は体型も雌化しているとのことで驚きである。

ところが、もっと詳しく調べようと文献などを探すが具体的な報文が見つからない。

実は毎年12月下旬～2月上旬にかなりの頻度で写真のようにカゲロウ幼虫の腹の中にトグロを巻いて見つかるのである。エルモンヒラタカゲロウかタニヒラタカゲロウかは幼虫から見分けはつかないが、成虫の発生時期と鑑みこの時期に見つかる成熟した幼虫は皆タニヒラタカゲロウと考えてよいだろう。春～秋には他の種類のカゲロウを含めてもこの生命体は見つけることが出来ない。タニヒラタカゲロウと特殊な因縁関係があるかもしれない。



2012年12月29日



2009年1月21日



2007年12月28日